

大鹿村中央構造線博物館たより

196号



2025年9月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

ハヶ岳から見た諏訪湖

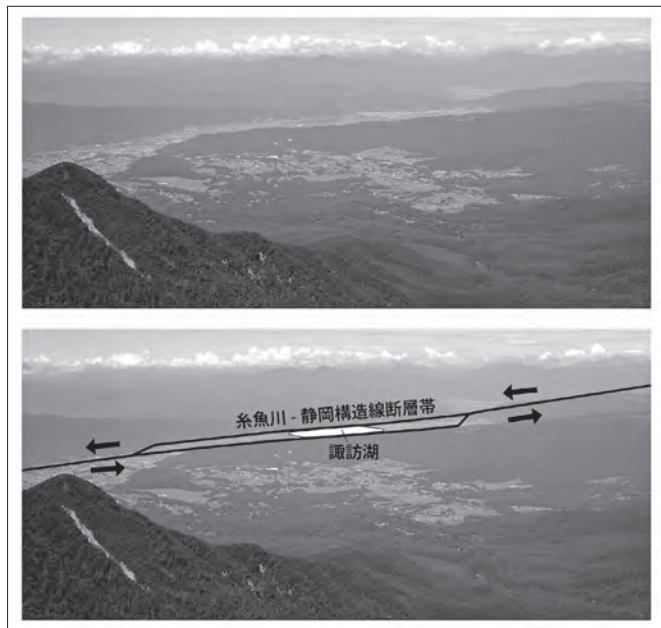


図1 上：硫黄岳から見た諏訪湖
下：上の写真に糸魚川-静岡構造線断層帯のおおよその位置を記入

先月は暑い日が続いたため、避暑を兼ねて、ハヶ岳連峰の硫黄岳に行きました。幸い好天で、山頂付近からは、諏訪湖が見えました。杖突峠や守屋山から見る諏訪湖とは様子が違い、南東-北西方向に伸びる尾根と尾根の間の溝を埋めるように青色の水面が見えました(図1)。

博物館たより165号(*1)でも触れましたが、諏訪湖を含む諏訪盆地は、南東-北西方向に伸びる糸魚川-静岡構造線断層帯の断層がもともと屈曲していたため、横ずれ運動に伴い凹地が形成されてできたと考えられています(図2)(*2)。このようにしてできた地形をプルアパートベイズン、もしくはプルアパート堆積盆と呼びます。(宮崎)

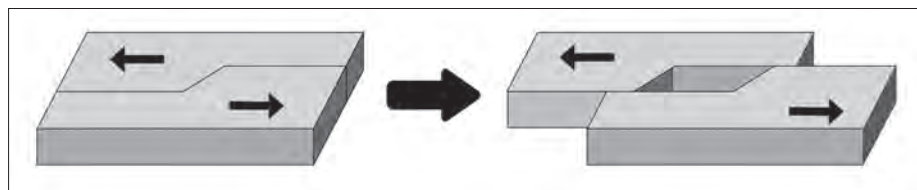


図2 屈曲した断層が横ずれして凹地(プルアパートベイズン)ができる模式図

参考文献 (*1)博物館たより165号 <https://mtl-muse.com/wp-content/uploads/2023/02/subindex01-04news165.pdf>
(*2)藤森孝俊(1991)活断層からみたプルアパートベイズンとしての諏訪盆地の形成, 地理学評論, 64 A-10, p.665-696.